東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2006年6月30日

子供の教育

ムスリムの皆様。健全な世界観を持たない西洋文明社会の教育者や心理学者たちは、およそ１０年に１度は変化する思想に基づき、親達に次々と新しい処方箋を与えてきました。その全てが「これが真実だ。これこれこのように振舞えば、あなたの子供は完璧に育つ」と宣伝されてきました。

私たちはムスリムとして、クルアーンとハディースの光によって、子供をどのように育てる必要があるのかを知るべきです。しかし残念ながら、私たちはそれらの参考にするべき源から顔を背け、多くが「私たちの子供にどうやって接したらいいのだろうか。」という問いへの答えを求めている状態です。

ムスリムである母親、父親は、まず自分達をただす必要があります。自らを改善することができない人が、他人を改善することはできません。そして、家で最も大切な部分はその土台であるのと同様、子供の精神的発達で最も重要な最初の数年です。専門家は、子供の個性が最初の７，８年で形成されること、特に最初の２年が最も重要であることを示しています。この年代、子供は継続的、包括的な愛情を必要とします。

親愛なるムスリムの皆様。子供達を躾けるにあたっては、あらゆる機会を利用して、子供達の命の大切さ、存在の意義を含めた根本的な知識を与えましょう。子どもたちは３歳～５歳頃から自分の周囲、そして世界に気づき、あなた方に多くのことを尋ねます。特に存在と死の意味についての説明を求めるでしょう。「お母さんも死ぬの？死んだらどうなるの？」「お父さん、アッラーはどこにいるの。」というような質問が次々に出てくるでしょう。あなた方も、子供たちが理解できるような言葉でそれに応えてください。あなた方が知っていることを子供に教えてください。アッラーを、クルアーンを、来世を。特に天使をも忘れないで下さい。子供達を守り、保護し、あらゆるところにいて、かつ、目には見えない存在を信じることは、アニメにでてくる想像上の怪物を恐れている魂たちへの薬となるでしょう。聖預言者（彼の上に祝福と平安あれ）と、イスラームの偉人達の生き方を説明することもとても大切です。成長する苗木のように、子供の魂は模範となるような完成された人々を求めるからです。ただ、宗教教育を行なう際には、過度に強制を行なわないことも条件となります。子供達と関わりあう為に時間を割いてください。私たちという媒介によってこの世界に生まれてきた、全てを学ぶ必要性を持ち、繊細で無垢な子供達は、日に１，２時間でも私たちと関わる権利を持ってはいないでしょうか？

慈しみの感情を誤ったところで使ってはいけません。アッラーの慈しみ以上の慈しみはありえないのです。「子供が苦労しないように、悲しまないように、泣かないように。」と、子供を自由に振舞わせておくことは、その子にとってよいことではなく、悪いことです。例えば、学校に行き始めた子どもに礼拝を教え、１０歳になれば礼拝をしなかった場合に罰を与える、ということが私たちの教えでは勧められています。一方で、母親、父親のいうことがバラバラであってもいけません。

ムスリムの皆様。残念なことに、私たちの多くが、子供達のために努力した分、その見返りを「あなたはこうならなければならないの」と、無理にでも得ようとしています。しかし忘れてはいけないことは、子供は私たちの財産ではない、ということです。私たちはただ、彼らの世話をする任務をおったに過ぎないのです。私たちがなすべきことを果たしたのであれば、後はアッラーが定められることです。そういった強制は子供によくない影響を与え、誤った道へ進んでしまうことの要因になりえます。特に青年期に達した場合には、「私は知っている限りの真実を伝えた、後はあなたが決めることだ。」ということが必要になります。

私たちが行なった全ての努力は単に要因である、ということを忘れないようにしましょう。アッラーのご満悦と子供達の為に、私たちはこれらの要因にできる限りを尽くしましょう。しかし、その結果に口を出すことはできないのです。だから、私は最後に子供達の為に、ドゥアーをしてください、と言いたいです。